

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

#### 1.1 化学品の名称:

製品名称: TACAS Ruby

SDS NO: 8620\_J-1

品番: 8620

#### 1.2 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途: 試験研究用

#### 1.3 供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称: 株式会社医学生物学研究所

住所: 〒396-0002 長野県伊那市手良沢岡1018-1

担当部署: SDSサポート

電話番号: 0265-76-1777

e-mail address: sds-support@mbl.co.jp

#### 1.4 緊急連絡先電話: 0265-76-1777(月一金曜(祝祭日を除く), 09-17時)

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

#### 2.1 GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体: 区分 3

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 2

呼吸器感作性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分 2

発がん性: 区分 1A

生殖毒性: 区分 1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 2(神経系、中枢神経系、視覚器、呼吸器、全身毒性)

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 1(肝臓)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2(中枢神経系、視覚器、呼吸器)

#### 2.2 GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

H226 引火性液体及び蒸気

H315 皮膚刺激

H319 強い眼刺激

H334 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H341 遺伝性疾患のおそれの疑い

H350 発がんのおそれ

H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

H371 臓器の障害のおそれ(神経系、中枢神経系、視覚器、呼吸器、全身毒性)

H336 眠気又はめまいのおそれ

H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(肝臓)

H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(中枢神経系、視覚器、呼吸器)

#### 注意書き

##### 安全対策

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P233 容器を密閉しておくこと。

P240 容器を接地しアースをとること。

P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P243 静電気放電に対する措置を講ずること。

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

P284 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P264 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

P280 保護手袋を着用すること。

P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

P280 保護眼鏡/保護面を着用すること。

P280 指定された個人用保護具を使用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

##### 応急措置

P370 + P378 火災の場合: 指定された消火剤を使用すること。

P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

P342 + P311 呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。

P304 + P340 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P302 + P352 皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

P303 + P361 + P353 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

P333 + P313 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

##### 貯蔵

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

##### 廃棄

P501 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :

#### 3.2 混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	HAZCODE_JP
エタノール	20.50	64-17-5	2-202	Flam. Liq. 2, H225; Eye Irrit. 2B, H320; Carc. 1A, H350; Repr. 1A, H360; STOT SE 3, H335 H336; STOT RE 1, H372; STOT RE 2,

				H373;
メタノール	1.00	67-56-1	2-201	Flam. Liq. 2, H225; Acute Tox. 4, H302; Eye Irrit. 2, H319; Repr. 1B, H360; STOT SE 1, H370; STOT SE 3, H336; STOT RE 1, H372;
ホルムアルデヒド	1.00	50-00-0	2-482	Flam. Gas 1, H220; Press. Gas, H280; Acute Tox. 4, H302; Acute Tox. 3, H311; Acute Tox. 2, H330; Skin Corr. 1, H314; Eye Irrit. 2, H319; Resp. Sens. 1, H334; Skin. Sens. 1A, H317; Muta. 2, H341; Carc. 1A, H350; STOT SE 1, H370; STOT RE 1, H372; Aquatic Acute 2, H401; Aquatic Chronic 3, H412
水	75.00<	7732-18-5	既存化学物質	-

#### 危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

エタノール, メタノール, ホルムアルデヒド

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

エタノール, メタノール, ホルムアルデヒド

化管法「特定第1種指定化学物質」該当成分

ホルムアルデヒド

#### 4. 応急措置

##### 4.1 応急措置の記述

###### 一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

###### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

###### 皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

###### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

###### 飲み込んだ場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

##### 4.3 医師に対する特別な注意事項

症状に応じた治療を施す。

#### 5. 火災時の措置

##### 5.1 消火剤

###### 適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

### 5.3 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

#### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

安全に対処できる場合は漏洩を止める。

### 6.2 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水溝に流れ込むと火災・爆発の危険性がある。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

#### 二次災害の防止策

安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。

危険でなければ漏れを止める。

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

### 6.4 参考情報

第13章参照

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 取扱い

#### 技術的対策

##### (取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

##### (火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

#### 安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

保護手袋を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

#### 衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

### 7.2 保管

#### 安全な保管条件

容器を密閉しておくこと。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

国際/国/地方の規則に従って保管すること。

#### 安全な容器包装材料

他の容器に移し替えないこと。

### 7.3 特定の最終用途

第1章に記載された特定の用途について、この章で記載されているアドバイスを遵守してください。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理指標

管理濃度及び濃度基準値

(メタノール)

作業環境評価基準 200ppm

(ホルムアルデヒド)

作業環境評価基準 0.1ppm

許容濃度

(メタノール)

日本産衛学会(1963) 200ppm; 260mg/m<sup>3</sup>

(ホルムアルデヒド)

日本産衛学会(2007) 0.1ppm, 0.12mg/m<sup>3</sup>; (最大許容濃度) 0.2ppm, 0.24mg/m<sup>3</sup>

(エタノール)

ACGIH(2009) STEL: 1000ppm (上気道刺激)

(メタノール)

ACGIH(2009) TWA: 200ppm;

STEL: 250ppm (頭痛; 眼損傷; めまい; 吐き気)

(ホルムアルデヒド)

ACGIH(2017) TWA: 0.1ppm;

STEL: 0.3ppm (上気道及び眼刺激 ; 上気道がん)

[ACGIH] 特記事項

(メタノール)

皮膚吸収

(ホルムアルデヒド)

皮膚感受性; 呼吸器感受性

### 8.2 ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。推奨材質: 非浸透性もしくは耐化学品ゴム

眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 9.1 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態 : 液体

色 : 淡赤

臭いデータなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点 : 34.5°C  
自然発火点データなし  
pH : 中性  
動粘性率データなし  
溶解度:  
水に対する溶解度データなし  
粒子特性データなし

9.2 その他のデータ  
その他のデータなし

## 10. 安定性及び反応性

- 10.1 反応性  
反応性データなし
- 10.2 化学的安定性  
通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
- 10.3 危険有害反応可能性  
危険有害反応可能性データなし
- 10.4 避けるべき条件  
避けるべき条件データなし
- 10.5 混触危険物質  
混触危険物質データなし
- 10.6 危険有害な分解生成物  
炭素酸化物

## 11. 有害性情報

### 11.1 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

##### 急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]  
(メタノール)  
human LD50=ca. 1400mg/kg (DFGOT vol.16, 2001)  
(ホルムアルデヒド)  
rat LD50=600-700mg/kg, 800mg/kg (SIDS, 2003)

##### 急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]  
(メタノール)  
rabbit LD50=15800mg/kg (DFGOT vol.16, 2001)  
(ホルムアルデヒド)  
rabbit LD50=270mg/kg (HSDB, Access on Jun. 2017)

##### 急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]  
(メタノール)  
vapor:rat LC50>31500ppm/4hr (DFGOT vol.16, 2001)  
(ホルムアルデヒド)  
gas: rat LC50=480ppm/4hr (SIDS, 2003)

#### 労働基準法: 疾病化学物質

メタノール; ホルムアルデヒド

#### 局所効果

##### 皮膚腐食性/刺激性

[日本公表根拠データ]  
(ホルムアルデヒド)

ラット (37% 水溶液) 皮膚損傷/40min、(2.5% 以上の濃度) 微小血管漏出 (REACH登録情報, Ac

cessed Oct. 2022)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

ラビット 7日以内に回復 (ECETOC TR No.48(2), 1998 et al)

(メタノール)

ラビット 区分2: Draize test (EHC 196, 1997)

(ホルムアルデヒド)

ヒト/ラビット 眼刺激性 (EHC 89, 1989)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

[日本公表根拠データ]

(ホルムアルデヒド)

cat. 1; 日本産業衛生学会 気道第2群 (産衛学会許容濃度の提案理由書, 2007); CICAD 40, 2002; DFGOT, 2014, Access on Jun. 2017

皮膚感作性

[日本公表根拠データ]

(ホルムアルデヒド)

cat. 1A; 日本産業衛生学会 感作性分類 皮膚第1群 (産衛学会許容濃度の提案理由書, 2021); ホルマリン (37%ホルムアルデヒド水溶液): mouse/陽性 (LLNA法) (EU CLP CLH, 2021)

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

(ホルムアルデヒド)

cat. 2; NITE初期リスク評価書, 2006; NICNAS, 2006; ATSDR, 1999

発がん性

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

cat.1A; (IARC, 2010)

(ホルムアルデヒド)

cat.1A; IARC Gr.1 (IARC 100F, 2012); NTP K (NTP RoC, 14th, 2016); ACGIH A1 (ACGIH 7th, 2017)

[IARC]

(エタノール)

Group 1 : ヒトに対して発がん性がある

(ホルムアルデヒド)

Group 1 : ヒトに対して発がん性がある

[ACGIH]

(エタノール)

A3(2009) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(ホルムアルデヒド)

A1(2017) : 確認されたヒト発がん性因子

[日本産衛学会]

(ホルムアルデヒド)

第2群A: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

cat. 1A; human : PATTY 6th, 2012

(メタノール)

cat. 1B; mouse : PATTY 5th, 2001

催奇形性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(メタノール)

中枢神経系、視覚器、全身毒性 (DFGOT vol.16, 2001)

(ホルムアルデヒド)

神経系、呼吸器 (NITE初期リスク評価書, 2006; SIDS, 2003; EHC 89, 1989)

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

気道刺激性 (PATTY 6th, 2012)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

麻酔作用 (PATTY 6th, 2012; SIDS, 2005)

(メタノール)

麻酔作用 (PATTY 5th, 2001)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

肝臓 (DFGOT vol.12, 1999)

(メタノール)

中枢神経系、視覚器 (ACGIH 7th, 2001)

(ホルムアルデヒド)

中枢神経系、呼吸器 (産衛学会許容濃度の提案理由書, 2007; ACGIH 7th, 2015; NITE初期リスク評価書, 2006; CICAD 40, 2002; CaPSAR, 1999, EHC 89, 1989; 環境省リスク評価第1巻, 2002)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

中枢神経系 (HSDB, Access on Jun. 2013)

誤えん有害性データなし

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

#### 水生環境有害性

##### 水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

藻類 (クロレラ) EC50=1000mg/L/96hr (SIDS, 2005)

(メタノール)

甲殻類 (ブラインシュリンプ) LC50=900.73mg/L/24hr (EHC196, 1998)

(ホルムアルデヒド)

藻類 (セネデスムス属) ErC50=4.89mg a.i./L/72hr(a.i.: active ingredient) (Ecotoxicol Environ Safety 54: 346-354)

##### 水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(エタノール)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属) NOEC=9.6mg/L/10days (SIDS, 2005)

(ホルムアルデヒド)

甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) NOEC=1.0mg/L/7days (AICIS IMAP, 2006)

#### 水溶解度

(エタノール)

混和する (ICSC, 2000)

(メタノール)



100 g/100 ml (PHYSPROP\_DB, 2009)

(ホルムアルデヒド)

混和する (ICSC, 2012); 難水溶性でない (400000 mg/L (SRC PHYSPROP Database, 2005))

#### 12.2 残留性・分解性

(エタノール)

急速分解性あり (BODによる分解度:89% (既存点検, 1993))

(ホルムアルデヒド)

急速分解性あり (BODによる分解度 : 87 - 96% (METI既存点検結果, 1988))

#### 12.3 生体蓄積性

(エタノール)

log Pow=-0.32 (ICSC, 2000)

(メタノール)

log Pow=-0.82/-0.66 (ICSC, 2000)

(ホルムアルデヒド)

log Kow=0.35 (SRC PHYSPROP Database, 2005)

#### 12.4 土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

#### 12.7 他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

#### 13.1 廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

#### 汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

### 14. 輸送上の注意

#### 国連番号、国連分類

14.1 国連番号またはID番号 : 1987

14.2 正式輸送名 :

アルコール類、N.O.S.

14.3 分類または区分 : 3

14.4 容器等級 : III

指針番号: 127

特別規定番号 : 223; 274

#### IMDG Code (国際海上危険物規程)

14.1 国連番号またはID番号 : 1987

14.2 正式輸送名 :

アルコール類、N.O.S.

14.3 分類または区分 : 3

14.4 容器等級 : III

特別規定番号 : 223; 274

#### IATA (航空危険物規則書)

14.1 国連番号またはID番号 : 1987

14.2 正式輸送名 :

アルコール類、N.O.S.

14.3 分類または区分 : 3

危険性ラベル : Flamm.liquid

14.4 容器等級 : III

特別規定番号 : A3; A180

## 14.5 環境有害性

海洋汚染物質（該当/非該当）：非該当

## 14.6 特別の安全対策

特別の安全対策データなし

## 14.7 IMO規則に従うばら積み海上輸送

MARPOL条約附属書II - 有害液体物質

有害液体物質(Y類)

ホルムアルデヒド; メタノール

有害液体物質(Z類)

エタノール

有害でない物質(OS類)

水

MARPOL条約附属書V - HME(海洋環境に有害)

発がん性: 区分1, 1A, 1B 該当物質

エタノール; ホルムアルデヒド

生殖毒性: 区分1, 1A, 1B 該当物質

エタノール; メタノール

特定標的臓器毒性, 反復ばく露: 区分1 該当物質

エタノール; メタノール; ホルムアルデヒド

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

## 15. 適用法令

15.1 当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない

有機則に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

エタノール; メタノール; ホルムアルデヒド

名称通知危険/有害物

エタノール; メタノール; ホルムアルデヒド

別表第1 危険物（第1条、第6条、第9条の3関係）

危険物・引火性の物 (30°C ≤ 引火点 < 65°C)

皮膚等障害化学物質（規則第594条の2）

メタノール

化学物質管理促進(PRTR)法

特定第1種指定化学物質

ホルムアルデヒド(1.0%)

消防法

危険物

第4類 引火性液体第2石油類 危険等級 III(指定数量 1,000L)

化審法

優先評価化学物質

ホルムアルデヒド

大気汚染防止法

揮発性有機化合物(VOC) 法第2条第4項

エタノール; メタノール; ホルムアルデヒド

- 有害大気汚染物質/優先取組
  - ホルムアルデヒド
- 特定物質 政令第10条第1号から第28号
  - メタノール; ホルムアルデヒド
- 水質汚濁防止法
  - 指定物質
    - ホルムアルデヒド
    - 法令番号 1
- 15.2 化学安全性評価
  - 本製品の化学安全性評価は行なわれていない。

## 16. その他の情報

### 参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN  
IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)  
IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年)  
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)  
2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
JIS Z 7252 : 2019  
JIS Z 7253 : 2019  
2023 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)  
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)  
Supplier's data/information  
化学品安全データ管理システム "GHS Assistant" Version 4.29 (<https://www.asahi-ghs.com/>)

### 改訂履歴

改訂情報なし

### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の見取り図を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。  
ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。  
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和4年度(2022年度))です。